

人権さんだ

3 月号

令和 8 年 (2026)

No.564

三田市の多文化共生

《問い合わせ》
健康福祉部 人権共生推進課
TEL : 559-5148 FAX : 563-7776
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp

▶チャングの演奏



フレンドシップ デイ イン サンダ
Friendship Day in SANDA のようす

▶外国にルーツのある若者(※)の発表



▶フィリピンの手作り雑貨の販売



▶子どもにほんご教室スキップの生徒による自国紹介クイズ



ともに安心して
暮らせる社会をつくらう

昨年11月15日(日)に Friendship Day in SANDA を開催しました。このイベントは、外国にルーツのある人(※)をはじめ、様々な市民の交流の場として行っており、昨年28回目を迎えました。約250人が来場し、外国にルーツのある若者の発表やおしゃべりタイム、「やさしい日本語」落語などのステージ、フランスの家庭料理作り、子どもにほんご教室スキップの生徒による自国紹介クイズなどを通じ、多くの参加者が交流しました。

今号の人権さんだは、多文化共生についての特集です。言葉や文化などの違いがある中でもともに安心して暮らせる社会をつくるため、私たちにできることを一緒に考えてみましょう。

※外国にルーツのある人(若者)

国籍に関わらず、両親ともに、または、両親のいずれかが外国生まれや外国育ちである人。また、本人が外国生まれや外国育ちである人も含め、幅広い人を表します。

UD FONT

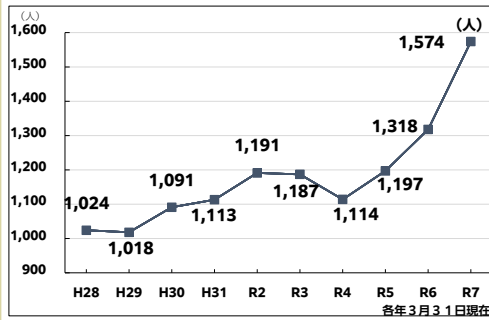
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

三田市に住んでいる外国人の状況について

三田市には、令和7年12月末現在、1737人（41か国・地域）の外国人市民が暮らし、この3年間で約1.5倍に増えています。出身国や地域については、現在ベトナムが一番多く、インドネシアやミャンマーなど東南アジア出身の人が増えています。

来日する人の在留資格（※1）については、「特定技能（※2）」の取得者が増えています。技能実習生に加え、研究職、IT業界、経理、翻訳など様々な分野で働く人も多く、その家族と一緒に来日する場合もあります。

三田市の在住外国人人数



※1 日本で滞在・活動するための資格
 ※2 介護、外食業、建設など特定の産業分野で働くための資格

Friendship Day in SANDA 外国にルーツのある若者の発表より

Friendship Day in SANDAの「外国にルーツのある若者の発表とおしゃべりタイム」では、外国にルーツのある若者が日本に来て感じたことを話してくれました。

参加者はテーブルを囲み、それぞれの文化の違いを共有しました。



サポダ・ビパナさん
 中学3年生
 ネパール出身

日本に来るきっかけはお父さんの仕事の関係です。カレー屋さんをしています。小さいときに何回か日本に来ていましたが、住み始めたのは小学校6年生の1月からです。

ネパールは中学校から高校まで同じ学校でやりますが、日本は違います。あと給食が、ネパールは5年生までです。今の学校では給食に月1回ぐらいカレー

の日があって結構みんな楽しみにして食べています。最初は、このカレーはカレーじゃないよ（ネパールのカレーと全然違う）と思いました。ネパールのカレーはちよっと色が違うのと、味が濃いんです。

最初はみんながわからないことをいっぱい教えてくれて助けてくれたりしていたけれど、少し慣れた頃は1人になったときもありました。少し寂しい気持ちになりました。

将来の夢は保育士です。小さいときから子どもの遊び声が好きで、保育士になりたいと思いました。



ヨン・ジャカンさん
 社会人
 マレーシア出身

日本のゲームやアニメがかなり好きで、オリジナルの作品を翻訳なしで楽しめるようになりたいと思います。中学校から五十音順でカタカナとひらがなを全部覚えることから始め、高

校になってからはある程度読めるようになりました。

日本にかなり憧れを持っていて、ここで頑張って生活し、みんなの社会や文化に溶け込もうと考えてきましたが、最初は人と人の距離感をうまくつかめませんでした。おそらく外国の皆様にも、多少なりにそういう苦渋の経験があると思います。建前と本音というのは私自身も言葉のまま受け止めてしまうところもあり、失敗の経験があります。

仕事でもコツコツ頑張って昇進していき、もっと多くの仕事を遂行できるようにしたら自分の語学力や外国人としてのアドバンテージを生かして、日本の商社（マン）としても海外の人と商売し、今以上に自分の視野を広げて世界を見て回りたいです。やがて日本で家族を作って生活するのが夢です。

外国から日本に来るにあたっては、不安や戸惑いがあります。が、実際に日本で生活する中で、言葉や文化の違いに悩みながらも、楽しく生活されているように思います。

三田市の多文化共生の取り組みについて

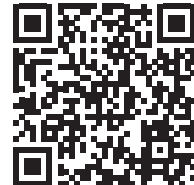
安心して暮らせるまちづくり	日本語の習得支援 <small>しえん</small>	多文化共生に向けた意識づくり
<ul style="list-style-type: none"> ●防災 外国人市民向け防災訓練 ●働く <small>しゅうろうしえん</small> 就労支援セミナー ●情報の多言語化 ・三田市ニュースレター ・さんだ子育てハンドブック ・ごみ出しのルール<small>しゅうしゅう</small>・収集日など ●通訳・翻訳制度 <small>つうやくほんやく</small> ●相談 ・国際交流プラザ相談窓口<small>まどぐち</small> ・外国人よろず相談 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語教室の開講 ・さんだくらしのほんご教室 ・子どもにほんご教室スキップ ・日本語サロンさんだ ●やさしい日本語セミナー ●日本語ボランティア養成講座 <small>こうざ</small> 	<ul style="list-style-type: none"> ●多文化共生イベント 『Friendship Day in SANDA』 <small>じんけんけいはつし</small> ●人権啓発誌『人権さんだ』 「やさしい日本語」コーナーなど ●姉妹都市交流 ・ブルームウンテンズ市(オーストラリア) ・キティタス郡(アメリカ) ・済州市<small>ちえじゅうし</small>(韓国) ●市政出前講座 <small>こうざ</small> 「さんだの姉妹都市をご紹介します！」 (「三田市の多文化共生」)



三田市国際交流協会 HP



(生活に関する情報)
Living Information
生活指南
생활정보



三田市の姉妹都市

異なる文化にふれることは、学ぶことが多くあります。それぞれの文化を大切に、誰もが地域で自分らしく生きられるように多様性を尊重することは大切な人権の考え方です。

地域で暮らす人がみんなお互いに関わり合いながら暮らせる社会でありたいものですね。

① 日本で生活する中で、どのようなことに困るだろうか
② 三田市で不自由なく生活するために、どのような情報を伝えるか

越してきたという設定で、

考えてみよう

昨年9月4日、兵庫県立有馬高等学校にて、「三田市の多文化共生」というテーマで出前講座を行いました。近所にベトナム人家族が引越してきたという設定で、

人権さんだアンケート

ご感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。

国際交流プラザ
こくさいこうりゅう

《時間》 10時から17時
(12時30分から13時30分を除く)

《定休日》 火曜日、年末年始

外国人よろず相談

《日時》 毎月 第2水曜、第4土曜
10時30分から12時30分

三田駅前 キッピーモール6階 まちづくり協働センター内

電話：079-559-5164 FAX：079-559-5173

国際交流プラザ
外国人よろず相談

外国人と交流し、その背景やお互いの思いを知り合うことで、誰かのフィルターを通してではなく、自分自身の目で相手の本質を見ることが出来ます。

生きやすい社会をつくるために、相手のことを知り興味を持つところから始めてみませんか。

